

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 若園荘 3階ユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100287		
法人名	医療法人 帰厚堂		
事業所名	グループホーム 若園荘 3階ユニット		
所在地	〒020-0886 盛岡市 若園荘 8-11		
自己評価作成日	令和5年12月25日	評価結果市町村受理日	令和6年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

盛岡市の中心、中津川に架かる上の橋から南に400メートル程の所に位置し、盛岡市内循環バス「でんでんむし」の停留所の正面に事業所があります。幼稚園、小学校、高等学校、武道館の社会資源にも恵まれた環境です。地域の特性を活かしながら、社会との関わりをもち、利用者一人ひとりが生き生きとした生活が送れるように努めています。町内会の一員として、地域の行事や集まりにも参加して皆様と交流を図らせて頂いています。子供会の資源回収や、町内会の朝掃除、道路沿いの植木の水やり、文化祭へ作品提供など、利用者様と共に参加させて頂いております。同法人の医療機関と連携を図りながら、防災意識を高め、利用者の健康管理を行い、安心して生活ができるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心部にあつて県庁や市役所から1km、バスセンターから500mに位置し、近隣には幼稚園、小学校、高等学校などがある。3階建てで2、3階が居住ユニットの開設10年の事業所である。医療法人が運営主体で、病院や老人保健施設、訪問看護事業所など14の医療や福祉の事業を運営しており、医療と福祉が連携してスケールメリットを活かした支援がなされている。コロナ禍で地域との交流を制限せざるを得ない状況にあつても、町内会文化祭への利用者の作品展示、清掃作業や子供会との共同の資源回収を継続するなど、これまでに培われた地域との関係の強さが伺える。コロナが第5類に移行したことを受け、感染症予防に留意しながら学校等との交流の再開を目指し、事業所の方針である「一人の人として尊重し、家族・地域の方々を支えられ、住み慣れた環境で自分らしく生きる」ことの実現に向け、職員一丸となって支援を行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 3階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の提示を行い、朝のミーティング時理念の唱和を毎日行い、意識付けしている。管理者は各職員に対し実践の確認をしている。	法人理念をベースとして開設時に管理者と職員でホームの運営方針を定め、その実現のため年度毎の行動目標を設定している。本年度は、利用者の権利擁護、継続した感染症予防の取り組み、情報の共有とし、利用者支援に努めながら、基本の確認と継続のため、毎朝のミーティング時にホームの目標を復唱している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4月～11月の間、地域の町内朝清掃に参加。子供会の資源回収にも協力を行っている。感染対策の為に限りはあるが町内行事にも参加している。	近隣の小学校や高校と定期的交流が活発に行われてきた。コロナ禍のため、現在は町内会の一員として清掃活動、文化祭参加、子ども会の資源回収など限られた活動となっている。コロナ禍等の感染症の動向を見極めながら、地域の各種団体との交流を再開していくこととしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人広報誌を通し地域、家族にも情報を発信している。運営推進会議(書面)などにも認知症への理解が得られるよう報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策の為、運営推進会議は書面にて開催している。活動内容、入居状況等の報告を行っている。	委員は、地域の町内会長と隣接地域の町内会長、地区の民生児童委員、地域包括支援センター職員、利用者代表、家族代表で構成され、4月から対面での開催に戻し、コロナ5類移行後の面会方法、外出などに関する情報交換が行われ、意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の改正時など相談や問い合わせを行い助言をいただいている。	日常の連絡は、電話やメールのやり取りが多いが、市の担当者とは、制度運用に関する確認や手続き等について連絡が取り合える関係にあり、必要に応じ出向いての相談も随時行っている。	地域包括支援センターが主催する地域ケア会議に出席できていない状況にありますが、地域状況や地域ニーズ等に関する情報は、事業所運営上有益であることから、地域ケア会議への出席を可能とするシフトの工夫が望まれます。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 3階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護の勉強会を荘内にて行っている。不適切なケア、身体拘束が及ぼす影響について勉強会を通して学んでいる。	身体拘束廃止委員会は、管理者、ユニットリーダー、訪問診療医、訪問看護師で構成され、3か月毎に開催している。その結果を毎月のユニット合同の定例会議で共有し、更に3か月毎の職員勉強会で学習している。日頃の支援について職員アンケートを行い、その上でスピーチロックの防止などについて、事業所の課題としてユニット合同の定例職員会議で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	荘内の勉強会にて不適切なケア、虐待について勉強を行い全職員で学び日常的に配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	荘内にて左記の事業、制度に関しての勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に説明を行っている。介護保険改定時には文書で知らせ、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱に設置やご家族様との面談を通して運営に反映している。	利用者の生活の様子が分かるように居室担当が、隔月に写真入りのお便りを出している。コロナが第5類になったことから、外出はできないか、墓参は無理か、孫の結婚式に参加させたいなどの問い合わせが多くなり、感染症予防に努めていただきながら希望が叶うように努めている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 3階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者との面談の機会を設け意見、提案を行っている。	ユニット合同の定例職員会議では、日常の支援で感じていることを自由に提案し、協議する雰囲気醸成されている。また、管理者との面接も実施しており、職員個々の思いを把握し、階の異なるユニットも経験したいなどの希望も受け入れている。また、法人として取り組んでいるストレスチェックも産業医の協力のもとで進められており、メンタル面の自己チェック体制も確立されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との面談や法人の意向調査を行い向上心を持って働ける環境整備の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	荘内での勉強会やが外部研修に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理栄養士に来ていただき指導をいただいている。また法人内の系列施設と情報共有して意見交換の場を設けている。(法人間連携会議)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人、ご家族様とお会いし思いや要望えお聞きする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に聞き取りを行い職員間で情報共有し、ケアプランに盛り込む等努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の思いを第一に考え支援と対応を行っている。法人とも連携を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気持ちに寄り添い出来ることに目を向け自立支援を意識したケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会等、母体の法人のガイドラインに沿って対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り本人様の要望に応じられるよう工夫している。	市内からの入居者が多く、コロナ禍前は行きなれたデパートやスーパーなどに出かける人もいたが、外出が制限された時期もあり疎遠になっている。また、入居が長くなると新たな環境に馴染み、訪問診療医、訪問看護師、定期的に来所する理髪業者が新たな馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の様子を観察し席の順番等を考えトラブルのないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも情報交換などの支援に努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方の要望、意向の把握に努め、職員間で共有し今後のケアに活かしている。	利用者の約半数は、自ら意思表示出ができる。思いや希望をうまく伝えることが難しい利用者に対しては、生活歴や家族からの情報に加え、日常の支援の中での表情、しぐさ、行動などから気付いたことを連絡ノートに残し、職員間で共有し支援に反映させている。	
----	-----	--	---	---	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 3階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の生活歴や馴染みの生活環境を聞き要望、意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況の変化など観察記録しスムーズに多職種への情報共有出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い職員間で話し合い、見直しを行いケアプランを作成しチームケアに活かしている。	関係機関からの事前情報に、入居時の利用者家族から得た情報を基に当面の支援計画を作成し、ユニットの全職員の意見も交え、居室担当者と計画作成担当者が所定のカンファレンス様式に従って整理している。3か月後に訪問診療医や訪問看護師、本人、家族の意向も確認し、管理者が整理し作成している。短期目標は3か月、長期目標は6か月で見直している。利用者の状態が変化した場合は、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、職員の気付き、申し送りノートを活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍にて電話での会話、パーティション越しの面会を実施し交流を図る。訪問診療や歯科衛生士による口腔ケアを実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会清掃や子供会の資源回収、花壇作り、避難訓練の際地域の方へ声掛けし理解と協力を得ている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 3階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人との連携を図り、月一回の訪問診療を行っている。定期的な往診により日常の健康管理状態の変化への対応が可能となっている。	入居時にかかりつけ医と相談のうえ、内科は系列の病院の内科医が主治医となり、各ユニットに月1回訪問診療で訪れ、訪問看護師は週2回来所している。他の医療機関への通院は職員が同行し、都合のつく家族とは通院先で合流している。皮膚科、眼科などは近隣の開業医を受診している。歯科は通院先の歯科衛生士の訪問指導を月1回受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になったことは、訪問看護ステーションの看護師へ報告相談し、情報共有しながら支援にあたっている。母体法人外来や一般病棟の看護師に健康相談もできており、連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は相談員と連絡を取り合い、利用者様にとって最善の判断をするように心掛けている。特に母体法人病院へ入院中の利用者の情報は密に取り合い、早期の退院を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族様の意向確認後支援を行っている。終末期の在り方については、入居時に指針を示し同意を得ている。ACPの考え方を取り入れた取り組みや主治医との受け入れ態勢等の整備も心掛けている。	入居時「医療連携体制と看取りに関する指針」を基に、重症化した場合の対応と看取りを行っていないことを説明し、同意を得ている。夜間の緊急時の対応は、訪問看護師に連絡し主治医の判断を得るシステムが確立されている。法人の系列病院、老人保健施設等に加え、理事長を同じくする特別養護老人ホームも運営しており、次の生活の場について家族と具体的に、相談する体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や防災マニュアルを整備し、荘内勉強会にて各自対応、実践力を見に付けるよう努めている。		

事業所名 : グループホーム 若園荘 3階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画と合わせて防災マニュアルを作成し、定期的な避難訓練を実施し、地域の方々の協力を得られるよう努力している。	火災想定での避難訓練(日中及び夜間想定)を年2回実施し、消防署の立ち合いも得ている。防災設備としてスプリンクラー、非常災害通報装置が設置されたオール電化の事業所であり、電気保安協会による定期点検も受けている。災害時の備蓄は、1日分のみ用意しており、有事の際には系列法人事業所への避難や物品の提供を受けることにしている。有事の際には、道路向かいのコンビニの協力をいただけることになっている。	鉄筋建ての3階建のビルの事業所であり、スプリンクラーなどの設備も完備されているが、勤務職員による避難誘導には、限度があるため、地域の協力について、町内会と協議し体制づくりを進めることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴に合わせた対応や声掛けの配慮をし、人格の尊重に努め、傾聴を心掛けている。	利用者の人格を尊重し、生活歴や職業歴に配慮しプライドを大切に言葉かけや支援を心がけている。入浴やトイレ使用では、前の方が全て終わってから誘導するなど羞恥心に配慮した利用者本位の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を確認した上でその支援を行っている。また、自己決定の機会を多く持てるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先せず、一人一人のペースを大切に希望に沿えるようまた、無理のないサービス提供をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴後の整容は勿論だが汚染した場合は都度交換している。また、ヘアカラー、パーマの希望の取り入れている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 3階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、トレー拭きなど役割を提供している。好物を把握し食事が楽しいものになるよう工夫している。	朝食は主食とみそ汁以外の副食は、ネットスーパーで購入し、湯煎し提供している。昼食は、法人本部管理栄養士が作成した献立により、ホームで調理している。夕食は、主食とみそ汁以外は冷食を1か月単位で発注して活用している。行事食は、利用者の趣向を確認して発注していたが、残食量が多いため品数を多くして利用者が残食しない量の弁当を手作りし、好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のアドバイスを得ながら、個々に応じた支援を行っている。刻み食やお粥等の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしながら口腔内の観察を行っている。週二回の歯科衛生士の指導を受け清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し無理のない声掛けをし自立支援に取り組んでいる。	排泄チェック表で排泄のリズムを把握し、見守り、声かけ、誘導を行いトイレでの排泄に努めている。排泄を整えるため、牛乳、野菜ジュース、ヤクルト、ヨーグルト等を活用して水分補給(1,300~1,500cc)を行っている。概ね自立している利用者は18人中9人で、大半の利用者がリハビリパンツを着用し、誘導による介助が必要な状況にある。夜間、居室でポータブルを使用している利用者は4人おり、転倒防止のためのセンサーマットも使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に留意しながらラジオ体操やレク活動へ参加していただき個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は体調面を配慮しながら一人一人好みの温度で湯舟にゆっくり入って頂けるよう支援している。また、毎日足浴を施行し職員との関わりを通して気持ちの安定に努めている。	土日も含み3日に1回(週2、3回)午前中に入浴し、ゆったり過ごせるよう調整している。利用者の好む歌をラジカセで流したり、入浴介助の職員との1対1の会話を楽しんでいる。入浴を渋る方に「湯上りのビール(ノンアルコール)を飲もう」と誘う時もある。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 3階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に傾眠がみられる方には必要に応じて臥床を促している。夜間眠れない利用者様には傾聴を行うなど都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や症状の変化は情報の共有ができるよう都度確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に出来る役割として日常の家事を職員と一緒にやる。また季節毎の行事を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として、お花見や紅葉ドライブで外出の機会を設け、個々に外出希望が聞かれた際には家族へ連絡し協力を仰いでいる。	穏やかな日に外気浴を兼ね近隣の散策を楽しんでいる。町内会からいただいた花苗の世話や、事業所のゴミをゴミ捨て場へ率先して出してくれる方もいる。感染症予防に配慮しながら、小グループで花見や紅葉見物にドライブで出向いている。家族の希望による外出や外食にも努めて応えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍に於いて買い物に出かける機会がない為施設管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は面会の日時調整、移動の介助など支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気など留意し、温度・湿度を測定している。利用者様が過ごしやすい環境になるよう努めている。季節に合わせた装飾を掲示している。	食堂兼ホールは広く、4人掛けテーブルが3台と椅子、ソファが配置され、窓からは岩手山が眺望できる。壁面に書初めや写真が飾られ、ゆったりとテレビを視聴できるコーナーもある。全館、空調管理され、一年を通じて快適に過ごせるように配慮されている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 3階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人用の椅子や共有スペースにソファを置いており、好きな場所で過ごせるように居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使っていた本人の物を持ってきてもらっている。ペットの写真や家族の写真を飾っている。	ベッド、洗面台、クローゼット、チェストが備えられている。エアコンと加湿器で温度と湿度が快適に保たれている。ベッド等は好みの位置に配置され、テレビやラジカセ、思い出の小物、写真を持ち込み、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活する上で必要な場所には障害物を置かないようにしている。利用者様一人一人に合わせて安全な環境作りを行えるように目指している。		